

オルガンの巨匠。

# ロレンツォ・ギエルミ オルガン・リサイタル

「目覚めよ、と呼ぶ声が聞こえ」

## J.S. バッハ 名曲集

バッハがいま、呼吸をはじめます……

国内最高峰のオルガンで巨匠が届ける、ヨーロッパの教会の響き

Johann Sebastian Bach (1685-1750)

前奏曲、ラルゴとフーガ 八長調 BWV545、529/2

Prelude, Largo & Fuga in C major BWV545 and 529/2

「装いせよ、おお、愛する魂よ」 BWV654

(17のコラール集より)

"Schmücke dich o liebe Seele" BWV654

協奏曲 二短調 BWV974

(原曲=A.マルチェッロ: オーボエ協奏曲)

Concerto in D minor BWV974 after Oboe Concerto by Alessandro Marcello

トリオ「主イエス・キリストよ、われらを顧みて」 BWV655

Trio "super Herr Jesu Christ, dich zu uns wend" BWV655

「来ませ、造り主なる聖霊の神よ」 BWV667

"Komm Gott Schöpfer, heiliger Geist" BWV667

協奏曲 イ短調 BWV593

(原曲=A.ヴィヴァルディ《調和の靈感》作品3-8)

Concerto in A minor BWV593 after L'estro Armonico Op.3-8 by Antonio Vivaldi

「いざ来ませ、異邦人の救い主」 BWV659

(18のライプツィヒ・コラール集より)

"Nun komm der Heyden Heyland" BWV659

「目覚めよ、と呼ぶ声が聞こえ」 BWV645

(6つのシューブラー・コラール集より)

"Wachet auf, ruft uns die Stimme" BWV645

「心よりわれこがれ望む」 BWV727

"Herzlich tut mich verlangen" BWV727

トッカータとフーガ 二短調 BWV565

Tocatta & Fuga in D minor BWV565

トッカータとフーガ 二短調

©Sergio Caminata

一般発売9月16日(水)

アレグロミュージック会員

電話予約受付開始 9月14日(月)

2/11 [木・祝] 2:00p.m.開演(1:00p.m.開場)

東京芸術劇場 コンサートホール

JR池袋駅  
西口すぐ

Thursday, 11 February 2016, Tokyo Metropolitan Theatre Concert Hall

SS ¥6,000 (SS券はツアープログラム引換券付き)

S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,000

Sペアシート ¥9,000 Aペアシート ¥7,000 Bペアシート ¥5,000

[全席指定・消費税込。SS席、ペアシートの取扱いはアレグロミュージックのみ]

お申し込み・お問い合わせ: (03)5216-7131 アレグロミュージック

(平日 10:00a.m.-6:00p.m.)

インターネットからのご予約 <http://www.allegromusic.co.jp/>

東京芸術劇場ボックスオフィス(0570)010-296 (休館日を除く10:00a.m.-7:00p.m.)

[PC] <http://www.geigeki.jp/t/>

[携帯] <http://www.geigeki.jp/i/t/>

電子チケットぴあ(0570)02-9999 <http://pia.jp/> 【Pコード: 274-608】

東京文化会館チケットサービス(03)5685-0650 (休館日を除く10:00a.m.-7:00p.m.)

Lorenzo Ghielmi Organ Recital

東京芸術劇場  
Tokyo Metropolitan Theatre

主催 ■ アレグロミュージック 提携 ■ 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 後援 ■ イタリア大使館 / イタリア文化会館/株式会社マーキュリー

# 「ヨーロッパの教会で聴いた パイプオルガンの響きが忘れられないのです!」

受話器の向こう側で必死に訴える女性からの電話を受けたとき、ギエルミのバッハを東京芸術劇場でやらなければ、と決意した。年月が経ってしまったが、やっとその日が来る。

パイプオルガンは奏者自ら音色をつくり出せる楽器で、そこに奏者のセンスと技量が表れる。ギエルミが名オルガニストといわれる理由は、知的で明るく透明感のある美しい響き、豪壮華麗なパイプの鳴らしっぷり、そしてバロック・オーケストラを思わせる音響が、その巧みなレジストレーションと両手両足の超絶技巧によって芸術的な域で表現されるからに他ならない。

ギエルミのバッハには格別の味わいがある。イタリア人の血がそうさせるのか、彼の音楽にはいつも歌心がある。その歌は独特の色彩感にあふれ、陰翳の深さに格調が滲む。今回は、J.S. バッハのコラールやトリオ、協奏曲など多様な様式のオルガン作品の傑作を集めた。コラールに込められた祈りの心情、トリオや協奏曲規模の曲を一人で奏でる妙味を味わえる贅沢な構成だ。楽器の機能を熟知し、卓越した技術を身につけたギエルミは、オルガニストとしても活躍したバッハの作品の真価を見せてくれるだろう。

さらに、今回使用するフランスの名工ガルニエの手による東京芸術劇場のパイプオルガンは、日本で唯一の中部ドイツ・バロック様式で作られたコンサート・オルガンである。ヨーロッパの伝統に倣った不等分律なバロック調律を用い、ピッチは現代の標準よりも半音低いA=415Hzを採用するなど、バッハ作品を演奏するにはまさに理想的といえるのだ。このオルガンをギエルミが奏しはじめるとき、作曲家バッハが起き上がり、大きく呼吸をはじめるに違いない。

ヨーロッパの教会と日本のコンサートホールでは、素材や建築構造が大きく異なる。しかし、その隔たりに超えて、ヨーロッパの教会で鳴り響くオルガンの音色や空気を運んでくれるのがギエルミである。名オルガニストによるバッハ名曲集との出会い、その至福の瞬間がついに訪れる。

あのときの女性にもこのチラシは届くだろうか…?

## Lorenzo Ghielmi Organ Recital



©Sergio Caminata

### ロレンツォ・ギエルミ

LORENZO GHIELMI - Pipeorgan

ルネサンスとバロック音楽の演奏家、研究家。ヨーロッパ、日本、アメリカなどで幅広くコンサートや、レコーディングを行なう。ドイツ・ハルモニア・ムンディ、ウィンター&ウィンター、アルスムジチなどからCDを数多くリリース。16~17世紀におけるオルガン芸術、バッハの作品解釈の研究にも熱心である。現在、ミラノの聖シンプリチアーノ教会のオルガニスト、ミラノ国際音楽アカデミーの古楽研究所でオルガン、チェンバロそして室内楽の教鞭を執っている。2006年からは、バーゼルのスコラ・カントールムの教授もつとめる。また、世界中の著名なオルガン・コンクールの審査員として、またマスタークラスの講師として招へいされている。2005年には、自身のグループ“ラ・ディヴィナ・アルモニア”を結成し、ヘンデルのオルガン協奏曲第1集（ディアパゾン賞受賞）などを録音している。東京カテドラル聖マリア大聖堂のオルガン建設のための芸術コンサルタントを務めた様子は、2004年NHKハイビジョン特集「パイプオルガン誕生」で紹介された。

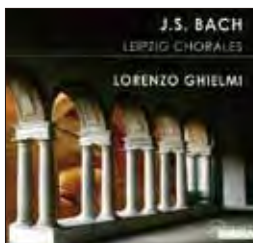
お客様のプライベートな時間をより大切にしたいため、弊社主催のコンサートでは開演および休憩後のベルを鳴らしておりません。定時になりましたら、お席へお着きください。

### 名匠、風格ゆたかに。

ロレンツォ・ギエルミ、銘器で奏でる歴史的解釈の数々



《発売中》『アーレントのある教会』  
バッハ パスティーニ ヘンデル  
スカルラッティ パーセル 他 C00-023 ¥2,800(税別)



バッハ：ライプツィヒ・コラール(全曲)他  
PSC954(2枚組)【日本新発売】¥4,000(税別)

《発売中》バッハ：オルガン独奏のための  
各 六つのトリオ・ソナタ PSC967  
¥2,800  
(税別) バッハ：フランス組曲第1・2・3番、  
イタリア協奏曲 他(チェンバロ独奏) PSC984